

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課 宮川 耕二 (課長補佐兼県直係長 吉村 文章)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	----------------------------------	----	----------------

事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	9.1 億円
		道路改良事業 (主)養父美方線(吉井BP)	養父市関宮～中瀬	内地補償費	4.2 億円

所在地	事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
養父市関宮～中瀬	H17	H17	H22

事業目的	事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・すれ違い困難区間、歩道未整備区間の解消により、円滑で安全な車両の通行を確保する。 ・合併を支援する道路として、平成16年4月に発足した「養父市」の充実したまちづくりを支援する。 ・養父市の観光拠点である氷ノ山や鉢伏高原へのアクセス向上を図り、観光振興、地域の活性化を図る。 	道路改良(バイパス) L=3,090m 現況幅員 : W=4.0(5.0)m 計画幅員 : W=5.5(11.0)m ; 2車線+片側歩道(2.0) 現況交通量 : 2,310 台/日 計画交通量 : 2,949 台/日

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区間は、人家連担地で幅員が狭小なことから車両の離合が困難である。このため、バイパス整備により円滑かつ安全な車両の通行の確保が必要である。 ・特に、冬季においては、降積雪による交通障害が発生しており、緊急車両の通行もままならない状況にあることから、救急医療、福祉、消防防災活動の迅速な対応を図るうえでも整備が必要である。 ・歩道未整備区間の解消と、関宮町内の4小学校を統合した関宮小学校、関宮中学校の開校に伴う安全な通学路を確保する必要がある。
暮らしと交流を支える道づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、旧関宮町域の骨格をなす道路であり、旧町の過半数が沿線に居住しているため、当該区間の整備は、平成16年4月に発足した「養父市」の一体感醸成を図るうえで必要である。 ・養父市の観光のシンボルである氷ノ山や鉢伏高原は、スキーなどのアウトドアスポーツや合宿活動の拠点であるが、国道からのアクセス性が悪いことを背景に入込客数が伸び悩んでいることから、バイパス整備によるアクセス性向上が必要である。
地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・「新市まちづくり計画」における「交通、情報基盤の整備」として本路線の整備促進を求めている。
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療、福祉、消防防災面での機能強化が図られる。 ・氷ノ山、鉢伏高原へのアクセス性向上による観光振興、地域の活性化が図られる。 ・「養父市」の骨格をなす道路であり、合併後の新市の一体感醸成が図られる。 ・費用便益 B/C=1.7
代替性	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区間は人家密集地で現道拡幅が困難である。また、通過交通を排除するうえでもバイパスが最適である。
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民の参画と協働によりルート決定しており、円滑な事業実施に向け、既に用地取得の面で地元の協力体制が整っている。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・通過交通がバイパスへ転換することにより、現道沿線集落の生活環境の改善が図られる。 ・盛土法面には、周辺植生に配慮した緑化を行い、環境への影響を最小限に留める。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年2月の死亡事故や「養父市」の発足、統合小学校開校などを踏まえ早期整備が望まれており、バイパス整備について地元住民との合意形成が図られたことから「合併支援県道整備事業」を活用し、平成17年度より事業着手する。